

ビジネス フォーカス

【飲料容器】

コーヒー飲料の容器市場動向

今まで拡大したと推計される。カップ需要量でみると、コーヒー・チエーン店が5億個、ファストフード店が11億個とみられる。使い捨て容器の市場としてみれば、コンビニのカウンター・コーヒーはコーヒーチエーン店を上回る規模にまで拡大している。

コンビニのカウンター・コーヒーにはコールド品とホット品とがあり、コールド品にはプラスチック容器、ホット品には紙カップが使用されている。紙カップ

容器メーカーにはカウンター飲料に最適な容器開発を急ぐ必要があるとする企業もある。

缶コーヒーを容器形状別にみ

飲料メーカー各社の缶コーヒーのアルミ缶化への取り組みには温度差がある。コーヒー飲料のほとんどはアルミ缶が用いられており、プルタブの缶コーヒー用容器では長らくスチール缶

が主に使用されてきたが、現在はアルミ缶の採用が進んでいる。これは鉄鉱石価格の高騰を受け、コーヒー飲料メーカーがアルミ缶コストの高止まりが今後も見込まれるため、先行3社の展開が奏功すれば他のメーカーも追随すると推測される。

カウンター・コーヒーの成功を背景に、コンビニ各社は新たな

一部のコンビニではすでに、ミルク入りコーヒーでもアル

ミ缶が採用される機運が高まっている。ミルク入りコーヒーでもスチール缶が使用してきたのは、缶へのコーヒー充填・封止後に殺菌処理工程が必要となるためだが、アルミ缶でも殺菌処理工程への対応を可能にしたところ、ミルク入りコーヒーでもアルミ缶の使用が可能となつた。

コーヒー飲料用の容器市場に業界の注目が集まっている。特に①コンビニのカウンター・コーヒー市場の急拡大に伴う「カウンター飲料」に最適な容器開発②缶コーヒーのアルミ缶化」といった流れが進んでいる。

2012年までカウンター・コーヒーは一部のコンビニの展開にとどまり、市場規模は大きくなかつた。しかし、13年にセブンイレブンが全店導入を発表して以降、同年のカウンター・コーヒー市場は6億9500万杯

れている。

現在、プルタブ付き缶コーヒ

ーの中でもブラックコーヒーでアルミ缶化が進み、14年以降にミルク入りコーヒーでもアルミ缶が採用される機運が高まる。使い捨て容器の市場としてみれば、コンビニのカウンター・コーヒーはコーヒーチエーン店を上回る規模にまで拡大している。こうした動きを受け、追加されている。また、生ビールを提供する案も検討されているようだ。こうした動きを受け、一部のコンビニではすでに、ミルク入りコーヒーでもスチール缶が使用してきたの

カウンター・コーヒーの成功を背景に、コンビニ各社は新たな一部のコンビニではすでに、ミルク入りコーヒーでもアルミ缶が採用される機運が高まっている。ミルク入りコーヒーでもスチール缶が使用してきたのは、缶へのコーヒー充填・封止後に殺菌処理工程が必要となるためだが、アルミ缶でも殺菌処理工程への対応を可能にしたところ、ミルク入りコーヒーでもアルミ缶の使用が可能となつた。

(矢野経済研究所)

相原 光一
C M E O 事業部部長